

一般質問

そこが聞きたい



14人が登壇

議員が町政全般または特定の事項について、町の見解を問い質します。
 12月定例会では、14人の議員が質問しました。
 主な質疑応答を、質問した議員が要約して掲載します。
 なお、会議中の発言と答弁の詳細は、伊奈町議会ホームページおよび図書館にある会議録でご覧になれます。

ページ	質問議員	質問事項
11	藤原 義春	<ul style="list-style-type: none"> ● 豪雨時における対応 ● 農業・商工業の担い手育成 ● 駅名変更 ● 業務改善加速事業の後を見据えて
11	永末 厚二	<ul style="list-style-type: none"> ● 風水害の対策について ● 地域包括ケアシステムの生活支援と介護予防について ● 町民の活動団体育成・補助を
12	五味 雅美	<ul style="list-style-type: none"> ● 県知事に望むことは ● ごみ処理政策の転換を ● 子どもの貧困の実態把握を ● 町職員にマイナンバーカードの取得を強制しないことを
12	戸張 光枝	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時における素早い情報発信と町民との協働 ● 各予防接種について ● 遺族が行う煩雑な手続きの手助けを
13	高橋 まゆみ	<ul style="list-style-type: none"> ● 避難所運営について ● 公園と歩道の植栽と雑草について ● 地域資源を活かしたまちづくりについて
13	大野 興一	<ul style="list-style-type: none"> ● 農業土木遺産保存のために、見沼田んぼを国、県立公園化に ● 業務改善加速事業と変形労働時間制について ● 安全、安心な学校給食について
14	青木 久男	<ul style="list-style-type: none"> ● 令和元年台風第19号について ● 会計年度任用職員発足（来年4月）を前にして ● こどもたちの未来に向けて
14	山野 智彦	<ul style="list-style-type: none"> ● 今回の台風19号風水害への対応検証と改善点 ● 国歌「君が代」について ● 中学校用教科書選定及び採択のプロセス ● 伊奈町総合振興計画後期基本計画について
15	佐藤 弘一	<ul style="list-style-type: none"> ● 町長の町政への取り組みと今後について ● 下水道整備について ● 防犯対策について
15	武藤 倫雄	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育施設の安全対策について ● 町の契約について ● 財政政策について
16	大沢 淳	<ul style="list-style-type: none"> ● 台風19号への対応と洪水ハザードマップ ● 病児保育の実施を ● 明るく楽しいPTA活動へ ● 安全・快適な小針小学校の校庭に ● 小針中学校の大規模校化解消と中学生の安全・快適な通学
16	上野 克也	<ul style="list-style-type: none"> ● 災害時に備えた公共施設の避難所機能の拡充について ● 建設土工事の担い手を育てる公共事業の平準化について ● 新生児聴覚スクリーニング検査について
17	上野 尚徳	<ul style="list-style-type: none"> ● ～台風・竜巻・地震・事故・火災～「伊奈町の災害対策・対応について」 ● 町制施行記念公園（通称：バラ公園）。トイレ等の整備を ● 上尾・伊奈広域ごみ処理施設の進捗状況
17	栗原 恵子	<ul style="list-style-type: none"> ● 空家等対策の推進に関する特別措置法に基づいて ● 成年後見制度の利用促進に関する法律について ● バイオトイレの設置について

綾瀬川と原市沼川の合流地点の拡幅を



ふじはら よしはる
藤原 義春 議員

問 台風19号が襲った時には、貯水池も満杯で、綾瀬川と原市沼川が氾濫の一手手前であった。地球温暖化に伴う台風の巨大化が心配されるが、綾瀬川と原市沼川の合流地点を拡幅すべきではないか。

答 綾瀬川の改修は、未改修部の流域自治体の悲願であるが、下流から北上する形で工事を進めているので、現段階では、下流域に影響が出る工事の要望は難しい。今回、綾瀬川の土砂のたいせきが多

い箇所ので浚せつ工事を実施することになった。たいせき物により盛り上がったいた箇所を、上流から下流へ河底に合わせ、掘り下げる予定だ。これで、綾瀬川の今以上の流下能力の向上が期待できる。伊奈町としては、埼玉県の河川担当部局と伊奈町が連携して浸水対策を検討する、伊奈町河川・下水道事業調整協議会において、議員の提言内容を地元の意見として紹介する。

廃業する中小企業に

問 廃業を考える中小企業に対策は。

答 一定の設備投資について、当該固定資産税を3年間ゼロとし、景気対策事業を実施する商工会と連携する。



台風19号が襲った後の、氾濫の一手手前の綾瀬川

栄地区水害対策のため新たな排水路を



ながすえ こうじ
永末 厚二 議員

問 大排水を栄六丁目境から直接綾瀬川に落とす方式は。

答 議員提言の、排水路を整備する事で大きな効果がある。現在、河川・下水道事業調整担当会議で、町内の水害対策を検討してお

り、今後、伊奈町河川・下水道事業調整協議会を設立する予定。この排水路の整備は、栄地区の水害を軽減・解消させる施策として、その会議及び協議会で検討する。早い時期に工事着手出来るよう協議

を進める。
地域包括ケアシステムについて

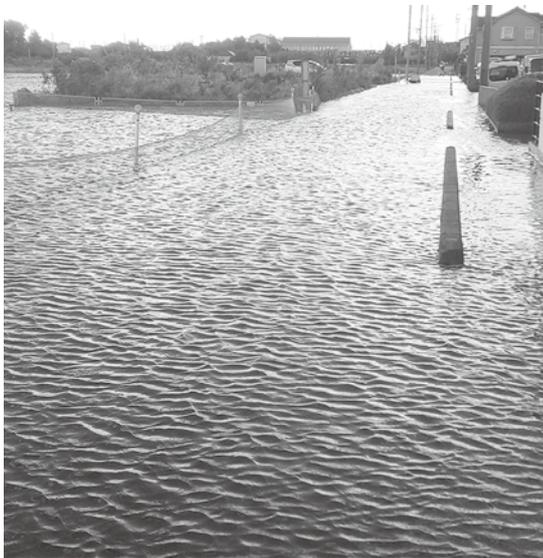
問 協議体や生活支援コーデイネータの2層3層組織をつくり、体制の強化を。

答 協議体や生活支援コーデイネータの体制強化は必要だと考えており高齢化の状況や地域差を考慮して、町の北部・中部・南部地区に分けて考えたい。今後、社会福祉協議会とも連携し、第2層の設置を進めたい。

町民との協働強化を

問 行政主導から町民との協働を強めるべき。

答 私も（町長）町民参加の町政実現のため、基本条例等の制定を公約した。協働のまちづくりの推進方法や条例など検討したい。



台風19号で冠水した栄6丁目北側道路と水田

ごみを「減らす、なくす」政策への転換を



ごみ まさみ
五味 雅美 議員

問 「燃やす、埋める」のごみ処理は、焼却施設の建設や維持に財政負担が大きく、また埋立て処分場では環境負荷も大きいうえで、埋立れ限界となる。ごみ問題の基本は、法律でも決して焼却優先ではな

答 い。ごみの減量やごみを出さない、に取り組む自治体もあるが。最終処分場は県内外4か所。残余年数は4年から34年。①元から出さない②再使用③再資源化④不要なものを買わない、の4Rの

推進で減量化し、老朽化施設の維持と、他市町村への依存を減らす。県知事に住民の声を

問 知事とともに、二ユーシヤトルの利用者負担軽減を。

答 知事とは太いパイプを持っている。新都市交通の取締役同士であり、情報共有を図る。子どもの貧困、伊奈町の実態調査を

問 昨年の調査内容は、貧困の把握を主眼としたものではない。公務員のマイナンバーカード取得促進、強制しないように

問 カードは持ち歩くことすら危険だというのに、政府は野放図に使用を拡大しようとしているが。

答 健康保険証として利用可能になる。



老朽化が進むクリーンセンター
財政のためにも、環境のためにも
ごみの減量化は課題です

災害時における
素早い情報発信と町民との協働



とばり みつえ
戸張 光枝 議員

町の公式ラインアカウント開設を

問 神川町は公式のLINEアカウント開設をしており観光情報・町のイベント情報・災害情報を随時配信している。災害時はあらゆる手段を使い瞬時に情

報を伝えることが先決。そのことが「多くの命」を守ることになるが。

答 開設について前向きに取り組む。

問 災害時の町民との協働
災害時、避難所へ最初に集まった方々が、迅速かつ的確な初動対

応が行えるように、やるべき任務を記した指示書入りの「ファーストミッションボックス」を自主防災組織に設置推進を。また、各種イベント時、指し書づくりのワークショップを開設し意識改革を。

答 自主防災組織で事例を紹介し、ワークショップ開設も検討する。遺族が行う煩雑な手続きの手助けを

問 身近な方がお亡くなりになると、保険・福祉など役場での各種手続きや銀行・法務局などの手続きがあり煩雑。そこで全国各地で広がりを見せる「お悔やみコーナー」の設置もしくは小冊子作成を。リーフレットの改善を図り、より充実させる。



神川町の公式ラインアカウントです
観光・イベント・災害情報が随時届きます

福祉避難所の拡充と緑の整備を



たかはし
高橋 まゆみ 議員

災害時に、障がいを持つ方が支援から取り残される事が無いような避難所対策を

問 町内在住で各障害者手帳の所持数は、療育手帳314人、精神障害者保健福祉手

帳262人、身体障害者手帳1037人。

問 福祉避難所の現在の受け入れ人数は。

答 5施設で概ね60人。体育館等の指定避難所で、余裕教室など

を利用できないか。

答 多くの課題があり現時点では難しい。

問 福祉避難所として利用可能な施設の洗い出しを行ってはどうか。

答 公共施設や他の社会福祉施設も含め検討する。

問 公園や歩道の植樹と雑草の適切な管理で、安全で快適な生活環境を職員による見回り体制は。

答 不定期見回りと、日常パトロールの中で通行に支障が無いよう維持管理に努めている。

問 今年度の苦情や要望の件数は。

答 11月末現在、町管理の樹木剪定9件・養生1件・除草4件・その他民有地等51件。

問 植込み等に防草シートの使用は。

答 現在は未設置。今後研究をしていく。

道路にせり出した枝、雑草が這う遊歩道、背丈ほど伸びた雑草など、危険がいっぱい



伊奈の田んぼを史跡公園に



おの こういち
大野 興一 議員

問 伊奈の綾瀬川付近の田んぼは、伊奈備前守忠次、忠治によって開かれ、享保期に井澤弥惣兵衛が見沼用水を開削して、さらに美田が広がった。史跡公園として永久に田んぼを保存したらどうか。

答 町総合振興計画では、町東部に広がる綾瀬田んぼについて「農と水辺のゾーン」と位置づけており、今後も地産地消の推進や自然環境の維持を図る。

問 「農地の集約化」は進んでいるか。

答 「農地の中間管理事業」は大針地区で来年からこの事業を実施する。他の地区でも、この事業の検討を考えている。しかし、引き受け手の新規営農者の増加が決め手である。

業務改善加速事業と変形労働時間制

問 業務改善加速事業の成果は。子供と向き合う時間が取れたか。

答 勤務時間外在校時間が一人平均13時間1分減少し、子供と向き合う時間が増えた。

問 変形労働時間制は教員の長時間労働を増やすことになるが。

答 国や県の動向を注視して研究する。

給食費の無償化を

問 給食費の値上げ分を無償化にできないか。

答 難しい。



やはたせき いせせ
八幡堰遺跡から広がる綾瀬田んぼ

会計年度任用職員について



あおき ひさお
青木 久男 議員

問 臨時職員は来年度から会計年度任用職員となるが、何がどう変わるか。

答 勤務条件にもよるが期末手当等の各種手当が対象となる。有給休暇や育児休業などとも国の基準に基づき整備

され、処遇が改善される。また、人事評価の活用や服務の宣誓、職務専念義務などが適用されることになる。

問 新制度移行による予算増ほどの位か。

答 現在の臨時職員の約290人が移行する

として試算すると概算で約6千万円の歳出増が見込まれる。
子どもたちの未来に向けて

問 次代を担う子供たちのたくましい成長を妨げる要因の一つに貧困がある。貧困対策の一例として学習や生活

支援の居場所づくりがある。県内の状況は。
答 県内63市町村で47市町が居場所を設置している。うち子ども食堂は43市町123か所で実施している。

問 子ども食堂は前々からその実施を求めてきたが進捗状況は。
答 現在社会福祉協議会や民生委員などが中心となり令和2年3月に第1回目を開催し当面は月1回の予定となる。

大風水害時の避難計画の見直しを



やまの ともひこ
山野 智彦 議員

問 台風対応と課題は。台風19号では警戒レベル3を発令しエリアメールを配信した。

答 台風19号では警戒レベル3を発令しエリアメールを配信した。各区長および冠水地域の民生委員に要支援者の対応をお願いした。IT機器、携帯電話を持たない方々への情報

伝達が課題点。

問 荒川水系が決壊した場合の対応想定は。

答 警戒レベル4発令の判断や全避難所開設を想定していた。
問 全員避難発令でどこに避難するのか。大水害時には町の高い地

域に避難する計画をつくるべきではないのか。
答 ハザードマップを国及び県の改訂が行われ次第、改訂着手し、避難計画見直しを検討する。

「君が代」について

問 東京オリンピックを控え、国歌君が代の授業内容を確認したい。
答 学習指導要領及び解説書の定めにより、小学校音楽では、いず

れの学年でも歌えるように。社会科では、国歌はいずれの国でも象徴として大切にされ、互いの尊重が必要であること。日本国憲法の下、天皇を国及び国民統合の象徴とし我が国の未永い繁栄と平和を祈念した歌であることを理解できるようにすることとされている。



調理中の職員（学校給食センター）



ラグビー日本代表も訪れた、宮崎県日向市大御（おおみ）神社の「さざれ石」。「国歌の意味まで知ることが日本代表だと思えます」とリーチマイケル主将は語った

町長の二期目への決意を問う



さとう こういち
佐藤 弘一 議員

問 掲げた公約とその成果は。今後の伊奈町の姿は。来期、町長選挙への意気込みは。

答 就任時の公約、まちづくり5大重点施策と18大目標に取り組んできた。第2子以降の出産費補助の増額や高

校生までの医療費無償化、健康長寿教室、町長タウンミーティング、伊奈忠次公でのまちづくり。小・中学校トイレの改修、中学生の英語検定料補助。伊奈中央駅エレベータ設置事業など、公約の90%を

達成した。今後の伊奈町は、町民が健康で長生きし、安心して子育てができ、助け合い・支え合い、地域で誰もが文化芸術やスポーツを親しみ、町内産業が発展する、日本一住んでみたいまちを目指したい。公約の9割は達成したが、消防広域化ごみ処理施設建設、伊奈氏屋敷跡の整備等、

まだまだ、成し遂げなければならぬ課題もあり、二期目へ立候補する決意をした。

問 市街化調整区域への整備の考え方は。

答 市街化調整区域の整備は、下水道整備予定区域の見直しが必要。※他に防犯対策について公道への防犯カメラの設置を質した。

問 市街化調整区域への整備の考え方は。

答 市街化調整区域の整備は、下水道整備予定区域の見直しが必要。※他に防犯対策について公道への防犯カメラの設置を質した。



コンビニに防犯カメラ設置のお願い

教育施設の危険除去と町の財政政策を質する



むとう みちお
武藤 倫雄 議員

問 体育館の雨漏り修繕を先ずたい。先の台風時に複数回の雨漏りがあったが修繕の予定は。

答 予算の範囲内で部分補修しながら将来の大規模改修に向けて計画策定をする。

問 窓への飛散防止フィルム施工はどうか。

答 避難所となる体育館、校舎高層階の窓を優先的に検討する。

問 校舎内で老朽化している分電盤等の扉、鍵等の総点検と修繕の計画は。

問 窓への飛散防止フィルム施工はどうか。

答 避難所となる体育館、校舎高層階の窓を優先的に検討する。

問 校舎内で老朽化している分電盤等の扉、鍵等の総点検と修繕の計画は。

答 目視点検を行い破損個所の補修を行った。引き続き点検を実施する。

問 地域貢献活動をしている町内業者について加算評価をするべき。

答 評価項目の見直しを図るとともに総合評価方式に取り組む。



子供たち・避難者・全ての利用者の安全と環境衛生を守るために

問 人口の変化によって住民税納税者の減少が想定される。セーフティネットと住民サービスの質を維持していくため、将来世代のための財源確保の政策は。

答 町の観光や商品販売を推進して「住んでみたい」「住み続けたい」町を目指す。

台風19号への対応



おおさわ じゅん
大沢 淳 議員

問 IT機器が苦手な方への情報伝達手段は。
答 町民の方々に行き届く手法を検討したい。
問 防災無線が聞こえなかった。自動電話応答サービスの周知は。
答 広報いなに掲載している。今後もさらに

周知したい。
問 避難所を低地である小針北小や南小ではなく、小針小やゆめくろに設置すること。
答 多くの町民が避難しやすい中心市街地に開設した。
問 内宿台6丁目の冠



道路冠水した内宿台六丁目

水対策を。
答 雨水管の築造などの対策工事を実施してきた。綾瀬川の河川改修と原市沼調整池の早期整備を強く要望する。
病児保育
問 病児保育の実施を。
答 医療機関の協力が不可欠。機会をとらえ相談したい。
明るく楽しいPTA
問 小針小学校PTAが全国表彰されたが。
答 大変名誉なことである。部会の統廃合、役員選出方法の見直し、グループウェアの活用による会議や印刷の軽減、紙ベースの広報誌の廃止など様々な改革が評価された。
小針小学校の校庭整備
問 低い校庭の整地を。
答 維持管理に努めた

災害に備えた公共施設の避難所機能の拡充を



うえの こくや
上野 克也 議員

問 町立小中学校の体育館のエアコン、調光機能付きLED照明、非常用発電設備、Wi-Fi設備及びトイレの洋式化の計画は。
答 エアコンは国や他自治体の状況を注視し研究する。LED照明

は大規模改修と併せ検討する。Wi-FiはICT化の進展を見据え検討している。トイレの洋式化は校舎の洋式化改修を優先。非常用発電設備はポータブル発電機を活用し対応する。
問 総合センターの非



避難所となった南小学校体育館

常用発電設備、Wi-Fi設備及びトイレの洋式化の計画は。
答 災害対策本部の代替施設のため、最低限の電源整備は確保済み。Wi-Fi設備の予定無し。洋式トイレは今後の改修にあたり検討する。
建設土木工事の担い手を育てる、公共事業の平準化について
問 債務負担行為およびゼロ債務負担行為と余裕期間制度の活用は。
答 建設工事に係る債務負担行為はない。ゼロ債務負担行為と余裕期間制度の実績はない。
県の「新生児聴覚スクリーニング検査」助成の意向調査について
問 町の回答は。
答 令和3年4月から妊婦健診に併せ実施する方向と回答した。

町民の生命と財産を守る



うえの なおのり
上野尚徳 議員

台風19号を教訓に

問 避難所の課題は。
答 職員の派遣、物資の準備、ペットの飼育スペースなど、概ね適切に運営できた。高齢者や体の不自由な人に対する配慮が課題。
問 避難所。浸水の可

能性が低い場所へ設置すべきでは。

答 多くの町民が避難しやすい場所に開設。浸水時は校舎の2階への避難を予定した。
問 浸水の可能性が低い避難所へ移動準備は。
答 検討を進める。



「町の魅力」の発信源・バラ公園トイレの数・質の向上を

問 情報発信不足。SNSでの情報発信は。

答 情報発信ができるよう検討する。

問 防災行政無線。高齢の人などに個別受信機を支給できないか。

答 大変有効であるが、認識しているが、財政負担が生じる。今後の課題と捉えている。

上尾・伊奈広域ごみ処理施設の進捗状況

問 候補地選定。今年度末の予定通りか。
答 来年度前半に遅れる見込み。

問 完成までの流れは。
答 令和3年度・候補地の地元同意、令和7年度・基本設計など。

令和11年度・造成工事着手。令和11年度・本体工事着手。令和14年度・完成。令和15年度・供用開始と想定。

未来型「バイオトイレ」の設置にむけて



くりばら けいこ
栗原恵子 議員

問 様々な面において環境に優しいバイオトイレを、町の観光拠点の一つとして整備している伊奈氏屋敷跡に設置したらどうか。

答 平成30年度に設置した仮設トイレの活用を基本にしたい。

空家等対策の推進に関する特別措置法

問 空家等対策計画を作成しているか。

答 空家の実態を把握した後、計画書作成に着手する。

問 補助金を活用して対策を強化する意向は。

答 実態調査を進めていく中で補助金等の活用や計画策定後に要件を満たした空家には、補助を受けられるよう進めていく。

成年後見制度の利用促進に関する法律

問 利用促進に関する施策を行うべきと規定しているが。

答 申し立てに要する経費の一部10万円を上限に助成している。

問 利用促進の強化に向けた司令塔の役割をもつ中核機関を設置しているか。

答 今後設置に向け関係機関と協議していく。

問 周知策はどの様に考えているか。

答 広報いなの活用やオレンジカフェ、ふれあいサロン、高齢者の集まる場で周知する。



自然環境を守り、汚染問題を解決するバイオトイレ